

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 四日市工業高等学校 全日制 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		校訓「技術と精神（こころ）」をすべての教育活動の基本に据え、生徒たちが将来のスペシャリストとして夢をもって、社会に貢献するグローバルな人材を育成するとともに人権を尊重し、スポーツ・文化活動等を通じて個性の伸長と生きる力を育成するため透明性のある学校運営による教育を目指します。
(2)	育みたい 児童生徒像	1 工業高校生としての専門性を高め、調和のとれた職業人 2 生徒会活動や部活動など自主的な活動を一層充実させることで、個性を伸長し、心豊かな人間性を備える生徒
	ありたい 教職員像	1 目指す学校像実現に向け、保護者・企業・地域等からの要望を受け止め、互いに情報共有を図り、すべての教職員が一体となった教育活動を進めるとともに、意欲を持って教育活動のできる教職員集団 2 仕事にやりがいを感じ、自らも成長しようとする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;生徒&gt;資格取得、部活動等における飛躍、充実した学校生活、進路希望実現を期待している。</p> <p>&lt;保護者&gt;充実した高校生活、子どもの進路希望実現と人間的成長を求めている。</p> <p>&lt;企業等&gt;元気で明るくコミュニケーションが図れ、社会に貢献できる生徒の育成が期待されている。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;家庭・保護者&gt; 情報共有、進路実現への取組</p> <p>&lt;卒業生・同窓会&gt; 学校の活性化と改善活動</p> <p>&lt;企業・地域等&gt; 心身ともに健康な人材の育成</p>	<p>&lt;家庭・保護者&gt; 本校教育方針への理解と協力 役割と責任の自覚及び相互の連携・協力</p> <p>&lt;卒業生・同窓会&gt; 連携と協力、支援</p> <p>&lt;企業等&gt; 連携と協力、支援</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>1 3年間を見通して取り組めるキャリア教育体制が確立している。</p> <p>2 ものづくり等教科活動において大きな成果があった。</p> <p>3 学校と地域とのつながりが徐々に深まりつつあり、地域行事への参加や奉仕活動など、四日市工業高校生に益々期待したい。</p> <p>4 地元小学校ものづくり体験は、工業教育の魅力を発信する絶好の機会として意義深い。</p> <p>5 防災面で災害時を想定した地域との調整が必要である。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	生徒たちは専門教科等の学習に努力し、将来のスペシャリストとして夢をもちながら、楽しく安心して学びたいという思いを持っている。また、部活動等では毎年優秀な成績を収めている。自己実現に向かって努力する生徒を育成していくことが求められ、そのためには、教職員自らが「学びの精神」を忘れず、クラスづくり・仲間づくり・生徒との関係づくり・授業づくり・授業の工夫と改善等に努力することが必要である。	
	学校運営等	<p>1 分掌、工業各科、学年間の連携がスムーズになり、教職員間で情報が共有されているため、組織としての意識が強まり、学校全体での取組が円滑にできるようになりつつある。</p> <p>2 進路指導が充実し、卒業生全員の就職が内定するとともに進学が決定した。</p> <p>3 資格取得、ものづくり活動、部活動等において大きな成果を収めている。担当者の放課後や休日を含めた熱意ある指導が実を結んでいる。</p> <p>4 7科24学級の大規模校であり、学校の取組みや指導が生徒や家庭に伝わりにくい。</p> <p>5 情報共有のため会議が多くなり、教職員の放課後の時間確保が少なくなっている。</p>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>1 生徒が卒業後に出会うであろう様々な社会環境の中で生きていくために必要な力(生きる力)とは何かを明らかにし、その力を身に付けさせるための活動を継続的・体系的に実践する。工業高校の専門性を生かし、優れた技術の練磨により、志高い調和のとれた職業人の育成を目指すため、資格取得やインターンシップの一層の充実を図るとともに「生き方・あり方」について考える教育に取り組む。</p> <p>2 生徒や教職員がそれぞれ一人ひとりを大切に、皆が常に思いやりの心を持って、互いに尊重し合い、信頼し合う人間関係をつくることにより、より良い人格の形成を目指す。</p> <p>3 生徒や保護者が四日市工業高校に「入学して良かった」と感じ、地域の人々が「地域にとって必要で愛着が持てる」と感じることでできる学校づくり及び教育活動を実践する。</p>
学校運営等	<p>1 変化する社会の状況の中で生徒の進路実現を図るために、全教職員が連携した指導体制及び支援体制を継続的に強化する。</p> <p>2 生徒会活動や部活動など自主的な活動をさらに一層充実させ、心豊かな人間性と個性の伸長を図る。また、人権教育基本方針をもとに、「差別の現実から深く学ぶ」ことを原則に、人権感覚あふれる学校づくりを推進する。</p> <p>3 社会から信頼される学校づくりを目指すため、保護者や地域等からの要望を受け止め、学校・保護者・地域が一体となって透明性のある学校運営を行う。そのために、教職員間の共通理解と協同性を大切に、学校教育目標の達成に向けて相互に協同し、切磋琢磨する関係性(同僚性)を保ちつつ、常に前向きにチャレンジし続けることができる職員集団とする。会議の精選と効率化、県内出張に係る復命書の簡素化による過重労働削減等による勤務時間の適正化も含め、心身にわたる健康の維持・増進やワーク・ライフ・マネジメントの推進を図りながら意欲を持って教育活動に従事できる「働きやすい職場づくり」を目指す。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価

項目	取組内容・指標	結果	備考
総務部	<p>1. 総務部内および各科・各分掌との調整をし、学校運営がよりスムーズに運ぶようにします。</p> <p>(1) 総務部会を開き分掌業務の進捗状況を把握し、部員全員で協力して行事等の業務に取り組みます。(総務部会 5 回以上)</p> <p>(2) desknet's を利用して、各科、各分掌への情報を正確に送受信します。</p> <p>2. 防災への意識を高め万一の事態に備えます。</p> <p>(1) 巨大地震が発生し津波避難を想定した防災訓練を実施します。(防災訓練 1 回)</p> <p>(2) 緊急連絡のシステムを整備します。</p> <p>3. 物品販売方法等についてのスムーズかつ効率よく販売ができる体制を整えます。</p> <p>(1) 合格者登校や新学期における、新入生への物品販売の方法の整理します。</p> <p>(2) 在校生への物品購入方法を徹底します。</p> <p>4. 人権感覚あふれる学校づくりを目指して人権教育に取り組みます。</p> <p>(1) 人権 LHR を 1 学期と 2 学期に全学年で取り組みます。</p> <p>① 1 学期は学年別テーマで実施します。</p> <p>1 年生…仲間づくり・障がい者問題</p> <p>2 年生…沖縄への修学旅行に向けて平和学習</p> <p>3 年生…全国高等学校統一用紙</p> <p>② 2 学期は全学年を統一テーマにし、障がい者差別について、身近な人権問題としてとらえ、自ら考え判断し行動できるよう話し合いを中心とした LHR を実施します。</p> <p>③ 1 年生入学後すぐに、スマートフォンの使用に関する啓蒙</p>	<p>1 (1) 学校行事の事前打合せを中心に年間 5 回以上実施した。毎朝打ち合わせを行った。そのため行事の準備や当日は比較的スムーズに開催できた。</p> <p>(2) 各科、各分掌への情報を送受信することができた。また、サーバーを利用することで、さらに深まった。</p> <p>2 (1) 地震による津波に対する防災訓練を行った。訓練に備えて、避難場所サイトの周知やアンケートを行うことで、生徒の意識を高めた。</p> <p>(2) 中部電力の「きずなネット」のメー</p>	

	<p>活動をおこないます。</p> <p>(2) いじめアンケートを年3回行います。</p> <p>(3) 人権教育を計画的、継続的に推進するため、人権教育推進委員会を開催します。(人権教育推進委員会の開催年間11回)</p> <p>(4) 教職員向けの通信は朝の打ち合わせ、desknet'sによる配信など教職員間の情報の共有を図ります。また、生徒には人権だよりを通して人権の啓発や情報の発信を年3回行います。(適宜)</p> <p>(5) 教職員の人権意識を高めるために、研修会を開催します。(研修会の開催)</p> <p>5. 保護者との連携を深めます。</p> <p>(1) PTA活動を充実します。</p> <p>① 役員会を5回以上実施します。</p> <p>② PTA研修視察を行います。</p> <p>③ 各研修会に積極的に参加しPTA会報(年1回発行)等で還元します。</p> <p>(2) 総会後の学年懇談会を充実させ、今後の学校の取組にも反映させます。</p>	<p>ル配信サービスの利用者加入を呼びかけた。(加入者1181名)</p> <p>3 (1) 新入生への物品販売方法について、よりスムーズに販売が可能となる方法を計画した。</p> <p>(2) 物品購入方法を整理し、円滑に生徒へ受け渡せた。</p> <p>4 (1)</p> <p>① 学年別テーマごとに学年と人権委員および委員会でも十分に検討して取り組むことができた。</p> <p>② 障がいについて知り、さらに講演を聞くことで、障がい者自身の問題ではなく、文化的社会的関係の中に問題があることに築くことができた。</p> <p>③ 1年生に対して、スマートフォンによるトラブルを回避するための啓発活動を実施した。</p> <p>(2) 6月、9月、2月に実施し、記入されていたすべての事案について状況を確認し未然に対応することができた。</p> <p>(3) 委員会を実施し、人権教育を計画的・継続的に推進できた。</p> <p>(4) 職員向けに公開人権LHRや講演会</p>	
--	---	---	--

などの情報を desknet's により配信し共有できるようにした。生徒向けには人権だよりを発行し啓発を行った。

(5)7月に人権プラザでのフィールドワークを行い専門的な指導を受けた。また、11月には人権LHR前障がい者に関する学習し現職教育を実施、生徒への指導を効果的にできた。

5

(1)①年6回の役員会を開催した。定例の内容を計画通りに実施できた。役員との意見交換も積極的にでき、充実した内容が検討された。②研修会の内容を中心に充実した内容のものが発行された。③すべての研修会に役員が中心となって参加した。

(2)事前に司会と記録との打合せを行いスムーズに懇談会が進んだ。また、懇談会後に報告会をおこない課題についてはすぐに対応することができた。

中部電力の「きずなネット」の100%の加入を目指し、保護者・生徒への呼びかける機会を増やす。  
 物品購入のシステムがある程度確立したので、さらに来年度の販売システムをより円滑で確実なものに構築したい。

<人権教育関係>

人権LHRでは、学年によっては時間が不足する場合もあった。来年度以降の時間配分を検討する必要ある。また、スマートフォンの使用に関する啓蒙活動現在の厳しい状況を伝えることができたが、他の行事と重ならないように、全校の予定を把握しておく必要がある。

課題として来年度1年間を通してLGBTQに対する知識と、理解向上に取り組みたい。

項目	取組内容・指標	結果	備考
教務部	1 生徒に「力」をつける環境づくりのため、年間300時間におよぶ自習課題時間を、授業変更や特別時間割の作成により、授業時間の確保に努めます。また、課題処理となった場合、クラスにより偏りが出ないようにも努めます。 2. 教務処理の運用を、現行の業務に照らし合わせ効率的で円滑な運用を目指し、校務処理の最適化に努める。また、特A情報の管理の徹底を促します。 3. 三重県統一校務支援システムに係るパイロット校における取り組みを進めます。	1 二学期末現在で261時間の自習課題、最小クラスは3時間最大クラスは21時間であった。 2 サーバーの分掌フォルダを活用し情報の共有、校務処理の最適化がなされた。達成率80% 3 二学期より現システムと平行稼働させながら問題点の確認など行った。達成率80%	◎       ※

### 改善課題

特別時間割の作成及び時間割変更を積極的に行った結果、昨年度の実績を維持することができた。課題処理のクラスの偏りは、改善することができなかった。現状の学校行事において、教務処理としては限界であり、授業時間確保のためには、根本的な見直しが必要である。業務の更なる効率的で円滑な運用、校務処理の最適化が必要である。三重県統一校務支援システムへの移行を円滑に進める。

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒指導部	1. 基本的な生活習慣の確立について取り組む。 (1) あいさつ運動を生徒会執行部と4月、9月、1月に実施します。  (2) 頭髪服装検査を各学期の初めに実施する。再々検査の人数を各学年「0」を目指します。  (3) 遅刻指導を各学期の終わりに実施します。  2. 交通事故防止の指導に取り組む。 (1) 登校指導を年間4回教職員全体で実施し、交通マナーの順守を徹底します。	1. について 指導については各々計画通り行うことができた。特に頭髪服装検査は事前の指導、また指導中の声掛け等の成果か、再々検査の人数を昨年度と比べ半減させることができた。 一方であいさつ指導は効果が一時的なものとなっており、常に啓発することが必要だと感じる。 また、遅刻指導では年々「寝坊」が原因の生徒が増えており、学年との連携が必要である。 2. について 指導については各々、計画通り行うことができた。特に自転車通学のマナー	

	<p>(2) 自転車通学のマナー向上のための講話・指導を行います。(各学期2回以上)</p> <p>(3) 自転車通学の安全のため、自転車点検を4月と3月に実施する。</p> <p>3. 環境美化活動に取り組みます。</p> <p>(1) 各学期に大掃除を行い、年度末には教室及び各科棟の整美を行います。長期休業中も学校の美化に努めます。</p>	<p>については、違反生徒を啓発活動に参加させ、当事者意識を喚起させた。</p> <p>また、通学の様子を動画で撮り、全体に指導した。</p> <p>3. について</p> <p>指導については計画的に行えた。今後、学年末の整美活動の中でさらに生徒に啓発していきたい。</p>	
--	---	--	--

改善課題

・「あいさつ」について

本校の基本理念を一番具現化したものである。入室時、来客に対しては言葉を伝えることができるが、日常生活でも大きな声で、はっきりできるようになりたい。さらに徹底した取り組みが必要である。

・「通学マナー」について

今年度も、本校生徒の通学マナーに対する苦情は0ではなかった。また自転車での事故も減ってはいる。自分事として考えられる指導方法を考えていかねばならない。

・「携帯電話、スマートフォンとの付き合い方の指導」について

学校内での不必要な使用、登下校時の使用など、指導すべき状況は増加している。またSNSでのトラブルが特別指導に直結したケースも多い。年度途中に生徒指導部からの「指針」を展開したが、さらに具体的に伝えることが必要であり、今後も重点的に取り組まねばならないと考える。

項目	取組内容・指標	結果	備考
進路指導部	<p>1. 職業観・勤労観の醸成を図るため、キャリア教育を進めます。</p> <p>(1) 進路講話(保護者全体説明会含む)・進路ガイダンス・卒業生との懇談会等を実施します。</p> <p>(2) 面接指導等に取り組みます。</p> <p>(3) 基礎学力向上を目指し、進路指導模擬試験の充実を図ります。</p> <p>(4) 1, 2年生に対して、早い段階から進路の意識付けのガイダンスを実施します。</p> <p>2. 進路決定と将来の生活への適応を目指します。</p> <p>(1) 企業訪問の強化を図ります。(企業訪問100社以上)</p> <p>(2) 生徒個々の適正に応じた企業選択をするため、情報提供を推進します。</p> <p>(3) ミスマッチをなくすため、応募前企業見学を実施します。</p>	<p>1) 進路講話を4月に実施し、3年生とその保護者に対し、適切な説明ができた。80%</p> <p>2) 職員全体の協力のもと行きとどいた面接練習ができた。80%</p> <p>4) 1・2年生対象の進路ガイダンスを12月に実施し9社からの企業説明を受けた。60%</p> <p>売り手市場が追い風となり生徒の就職内定率が予想通りの結果となり、非常に良かった。90%</p>	

改善課題

①今年度は、就職希望者(公務員を除く)全員の内定が10月中旬くらいに決まった。しかし、16名の生徒が1次試験に失敗し残念な結果となった。要因の一つとして考えられるのが、自分の言葉が相手に通じなかったことや、逆に聞かれてもいないことをしゃべり過ぎたところだった。また、自分に適した企業選びが学校関係者や保護者により斡旋、決定されてしまうことも課題の一つだと考えられる。やはり高校生の企業選択は自分の能力にあった選択を本人の意思ですべきことだと感じた。さらに面接に重点を置く企業がほとんどで、それに対応できなかった生徒が落とされた傾向も、今後の改善策として考えていかなければならない。

②12月実施の1・2年生を対象とした進路ガイダンスであるが、企業を産業分類別に10社お呼びして企業説明をしていただいている。今年度で3回目になるが、キャリア教育の一環として生徒の職業感や意

識の向上を高めるために実施している。しかし、長時間にわたるため、生徒の集中力が午後にはきれ始め、説明をいただいている企業に対し、聞く態度が怠慢になってしまう。これはどこの生徒も同じことが言える。今後、企業数を減らし別メニューを考えるか、完全に今年度で終了するかと考えている。

項目	取組内容・指標	結果	備考
保健部	<p>1 生徒のプライバシー保護に留意しながら、健康に関する情報の把握と共有に努め、健康相談を随時行います。また、1年間を通して、生徒の歯に関しての保健指導を行います。</p> <p>2 保健便り「すこやか四工」を5月以降毎月発行し、タイムリーな情報を生徒に伝え、健康への関心を高めます。また、生徒保健委員会による保健だよりを4回発行し、生徒自身が健康について考える機会とします。</p> <p>3 結核検診・心臓検診・腎臓検診における精密検査の実施率を100%にします。</p> <p>4 学期に一回「学校保健委員会」を開催し、学校医との連携・情報交換を密にします。(年4回開催予定)。</p> <p>5 集団指導として、薬物乱用防止講話、性に関する講話を年1回ずつ実施します。</p> <p>6 学期に1回安全点検を実施します。また、安全点検時に限らず、危険箇所について報告を受けた場合は、生徒・職員に周知徹底をし、事故防止に努めます。</p> <p>7 教育相談を係が実施し、必要に応じ、カウンセラーにつなげます。また、保健室と関係教員が一致して生徒に対応できるようにします。</p> <p>8 特別支援教育推進委員会を年5回開催し、校務フォルダを活用しながら、職員が一致して支援を行えるように情報共有を図ります。</p>	<p>1 歯科指導は、文化祭や便りでの情報提供に留まり、発展させるのが難しかった。生徒の健康状態の把握と健康相談は、必要に応じて実施できた。70%</p> <p>2 各たよりの発行に関しては100%達成。今後も自ら健康管理をできる生徒の育成を目指して情報を発信していく。100%</p> <p>3 健康診断及び精密検査は対象者全員が実施済み。今後も定期検診を全員が受けていけるよう指導を続ける。100%</p> <p>4 4回実施し、保健指導や健康管理において学校医からの助言をもとに校内での取組や対応を検討した。100%</p> <p>5 6月に薬物乱用防止講話実施。12月に性に関する講話を実施。100%</p> <p>6 学期に1回の安全点検を実施した。結果をまとめ、管理職へ情報を提供した。80%</p> <p>7 養護教諭、教育相談が担任や科の教員と連携し、必要な生徒をカウンセラーにつなげることができた。70%</p> <p>8 年間計5回の委員会を開催。校務フォルダには、1年生分を作成。80%</p>	

改善課題

学校保健活動：今後も学校保健委員会を中心とした学校保健体制の組織作りを進める必要がある。学校保健委員会の実施については、会議形式以外の方法での実施を含め、新たな活動内容を検討。

生徒の健康の保持増進に向けた健康診断の実施、定期検査への支援、更なる保健指導の充実が今後の課題である。

安全点検：安全が確保できない場所への対応を進める必要がある。

教育相談：専門家（今年度は教育相談専門員）との面談時間数が少なく、継続的に支援すべき生徒及び保護者等への面談が定期化できない場合がある。次年度以降はさらに面談時間を考慮して専門家の選択を検討する必要がある。

また、継続的な支援を行うため、校内の支援体制の構築が課題。

項目	取組内容・指標	結果	備考
図書部	1. 図書館の利用促進に努めます。 (1) 年間貸出数（生徒）7000冊を目指します。 (2) 広報活動の充実に努めます。（図書館便りを月1回発行、ホームページを年間3回更新します。） (3) 生徒が主体的にかかわれるキャンペーン企画を実施します。 (4) 生徒と積極的にコミュニケーションを図り、読書の手助けをします。 2. 図書館利用のマナー向上に努めます。 (1) 生徒との対話を通して図書館利用のマナー向上に努めます。 3. 様々なニーズに対応できるよう、資料の収集に努めます。 (1) 各教科・分掌の推薦により、授業や資格取得に有用な図書を購入し、資料の充実に努めます。 (2) 生徒のリクエストを受け、そのニーズに対応するよう努めます。	達成度 100% 8053 冊(3/24 現在) 達成度 100% 年間 5 回実施 リクエスト件数 108 件 (昨年 63 件) 対応件数 101 件 (昨年 61 件)	

#### 改善課題

- ・図書館便り、新着図書案内等による継続的な広報活動は、図書館の活用促進に一定の効果を及ぼしている。さらなる内容の充実を目指す。
- ・企画したキャンペーンには多くの生徒が参加し、図書館の活用促進につながった。文化祭の参加企画は図書委員会が中心となって立案・運営し委員会活動の活性化が図れた。今後も生徒が主体的にかかわれる企画を実施していくことが大切である。
- ・教科のみならず、学年や分掌とも連携し、様々なニーズに対応した資料収集に努める必要がある。
- ・リクエスト制度を利用する生徒が増えている。さらなる周知徹底に努め、多くの生徒が制度を有効に活用できるようにしたい。

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 学年	1 基本的な生活習慣の確立を目指します。 (1) 遅刻・早退・欠席が無いよう指導します。 (2) 教室内を整理整頓し、掃除を徹底します。 (3) 1 学年生徒 321 名全員の進級を目指します。 2 コミュニケーション能力を伸ばします。	1 について 遅刻・早退・欠席をしないように指導はするものの中学校のときに、休み癖のある生徒が入学しているのか一部の生徒に偏って欠席が目立った。 転学、退学した生徒もおり全員の進級は目指せなくなった。 2 について	

	<p>(1) 自ら進んで爽やかな挨拶, 丁寧な言葉遣いができるように指導します。</p> <p>(2) 「報告・連絡・相談」が身につくように指導します。</p> <p>3 基礎学力の向上を図り、将来の進路を具体的に考えさせて、学習意欲を高めます。</p> <p>4 学年通信を発行します。</p>	<p>担任部屋への入室時に挨拶やきちんとした対応ができる生徒が増えた。</p> <p>3について 進路について考えさせる時間を持つことができず、満足な結果を得ることはできなかった。</p> <p>4について 夏休みを除いて、毎月2回発行することができた。(現在16号まで発行)</p>	
--	--	--	--

### 改善課題

いろいろな理由で学校を休む生徒が増えてきている。学年だけでなく、保健室や教育相談とも連携を取り対応していく必要があると思われる。

ほとんどの生徒は問題ないが、中には人前で大きな声で話すことが苦手な生徒もいる。将来(就職)に向けて個別の対応が必要と思われる。

進路について、授業や実習の中で生徒に話す機会をそれぞれの担任が取り組むよう努める。

学年通信については、生徒はよく読んでくれているが、保護者の手元に届いていない家庭もあるのでその点について徹底していく必要があると思われる。

項目	取組内容・指標	結果	備考
2 学年	<p>1 社会で生きていくために必要な力を身につけさせます。</p> <p>(1) 時間を守る、学習する環境を整えるなどといった基本的な生活習慣を身につけさせます。</p> <p>(2) 基礎学力を伸ばすために、授業を大切にさせます。</p> <p>(3) 資格検定試験に積極的に挑戦させます。</p> <p>(4) あいさつや言葉遣いの指導を徹底し、社会で必要な礼儀を身につけさせます。</p> <p>2 生徒のしあわせの実現を目指し、学校生活を充実させます。</p> <p>(1) 生徒を理解するために個人面談を年間1回以上実施します。</p> <p>(2) 学校行事を充実させるための工夫をします。</p> <p>(3) 体育祭、四工祭、クラスマッチなどの機会をとらえて生徒と触れ合う時間を増やします。</p> <p>(4) 修学旅行を充実したものとするために、修学旅行委員会を組織します。</p>	<p>90%</p> <p>教室の整頓や教材の持ち帰りなど、学習環境の整備に取り組みせた。また、授業規律の確立にも努めた。危険物取扱者試験などにも積極的に取り組むことができている。学年担任室への入退室時などにあいさつや言葉遣いを指導している。</p> <p>99%</p> <p>※達成度は「修学旅行アンケート」の結果による</p> <p>体育祭の選手決めや四工祭の企画立案において生徒の自主性を重視して行事の充実につなげるとともに、生徒と触れ合う機会を増やすようにこころがけた。</p> <p>また、修学旅行委員は、班決めや班のコース決めなどに積極的に関わることが</p>	

	<p>3 キャリア教育を推進します。</p> <p>(1) 各分掌と連携して充実したLHRを年間10回以上実施します。</p> <p>(2) 国語科と連携してスピーチなどの言語活動を年間1回以上実施します。</p>	<p>できた。</p> <p>90%</p> <p>進路指導部による進路ガイダンス、保健部による薬剤師さんの講話等、分掌と連携したLHRを実施して内容の充実に努めている。また、「手紙の書き方」についてのワークを実施した。</p>	
--	---	--	--

改善課題

基本的な生活習慣は概ね身に付きつつある。

来年度はいよいよ最高学年となるので、朝会に早く集合することや、壮行式等で大きな声で校歌を斉唱するなど、学校の中心となることを意識させていきたい。

また、資格取得等には、引き続き積極的に取り組ませたい。

生徒は、一年時に比べて自主的かつ活発に行動できるようになってきている。今後も、学習、部活動ともに生徒がさらに充実した生活を送られるよう、学年として取り組んでいきたい。

LHRにおいて、実際に暑中はがき(かもめーる)を使用して「手紙の書き方」を指導した。3学期には「礼状の書き方」を指導する。また、「進路のしおり」の用い、面接についても学習させる。このような取り組みを通して、進路目標の設定とその実現について考えさせたい。

項目	取組内容・指標	結果	備考
3 学年	<p>1. 社会で生きていくために必要な力を身につけさせる。</p> <p>(1) 時間を守る、学習する環境を整えるなどといった基本的な生活習慣を身につけさせる。</p> <p>(2) 基礎学力を確実に身につけさせるために授業を大切にさせる。</p> <p>(3) 資格試験に積極的に挑戦させる。</p> <p>(4) 担任室への入室時など、挨拶や言葉遣いの指導を徹底し、社会で必要な礼儀に加えてコミュニケーション力、「報告・連絡・相談」の習慣を身につけさせる。</p> <p>2. 生徒のしあわせの実現を目指し、学校生活を充実させる。</p> <p>(1) 生徒を理解するために個人面談を年間1回以上実施する。</p> <p>(2) 保護者との連携を密にするため、必要な場合は生徒を通してではなく、直接連絡をとる。</p> <p>(3) 体育祭、四工祭、クラスマッチなどに力を注ぎ、教師が生徒と触れ合う時間を増やす。</p> <p>(4) 各分掌と連携して充実した学年LHRを年間10回以上実施する。</p> <p>3. 進路指導部・科等と連携・支援により、生徒の進路保障に努めます</p> <p>(1) 就職希望者の内定率100%を目指します。</p> <p>(2) 進学希望者の志望校合格率100%を目指します。</p> <p>4. 学年通信を年間12回発行します</p>	<p>1. 社会で生きていくための力をつけさせるため、取組内容以外、また、学校全体で取り組む人権講座、性教育など講座に加えて、3 学年で、租税講座、年金セミナー、スーツ着こなし講座などを開催し、社会人になる準備講座を開催しました。</p> <p>2. 学校生活は、文化祭体育祭などの行事に充実した取組みができました。</p> <p>3. 進路については、公務員受験の3名を除き100%でした。卒業までには就職進学ともに100%を目指します。</p> <p>4. 学年通信は12月1日で15号の発行です。最終号は18号の予定。</p>	

改善課題

就職試験終了後(10月以降)の資格取得に力が抜けていました。将来のために目標をもって、仕事内容に即して、必要な資格取得に最後まで取り組ませたい。

LHRの時間数が少ないうえに講座を開催したので、朝会とあわせて集会形式が多く、クラス討議など、クラス単位での活用時間数が少なかったかも知れません。

項目	取組内容・指標	結果	備考
物質工学科	<p>1 地域産業界との連携を図り、キャリア教育を推進するため、就業体験（工場見学、インターンシップ等）の機会を設け、生徒が自信を持って就職や進学ができるように工業科における職業教育に取り組みます。</p> <p>（1）工場見学を1年生は6月、2年生2月に予定</p> <p>（2）インターンシップへの参加を通して、社会人としてのマナーの習得や職業観・勤労観の育成を図ります。（2年生39名全員）</p>	<p>100%</p> <p>工場見学、インターンシップ、実習を通して就職についての意識付けができた。</p>	
	<p>2 専門分野に関する知識・技術の充実及び学習意欲を喚起し、各種の資格取得を目指すため、授業、補習等を実施します。</p> <p>（1）1年生での危険物取扱者乙4類全員合格を目指すことで、専門分野に関する知識・技術の充実及び学習意欲を喚起し、3年間で危険物取扱者全類合格者80%以上を目指します。危険物取扱者甲種、高圧ガス製造保安責任者等の難関資格への取り組みも行う。</p>	<p>70%</p> <p>危険物取扱者乙種4類受験において補習授業、他種受験においてはプリント等で自習を実施した。</p>	
	<p>（2）ものづくり大会に出場し、入賞を目指します。</p> <p>3 実習・課題研究を通して、製造現場等で安全第一を心がける意識及び考え工夫する力を養う。</p>	<p>60%</p> <p>ものづくりコンテストでは、県大会個人2位、3位をたたした。</p> <p>100%</p> <p>事故等なく、実習、課題研究を行うことができた</p>	

#### 改善課題

1年次で危険物取扱者乙種第4類合格率100%にむけて、計画的に授業や補習を進めることができた。結果は90%であったが、他県受験で本年度中に100%にしたい。3年次には危険物取扱者試験乙種全類全員合格をめざしたい。インターンシップは1社のみで職場体験の色合いが強いが、生徒たちに多くの企業を経験させることも必要なので複数回実施できるようにしたい。2学期にいじめの事案が発生したが、保護者とも連携をとり現在はクラス状態も良好と思われる。ひき続き注意を払いたい。3年次の就職指導における面接指導に早くから取り組み、2名の不合格者があったが、就職試験対策はまずまず成功した。就職が内定すると気を抜く生徒が多く見かけられるが、卒業まで新たな目標を持たせて指導していきたい。すべてにおいて、今後も保護者・学校がしっかりと連絡を密に取り、連携をして進めていきたい。

項目	取組内容・指標	結果	備考
機械科	<p>1. 生徒の進路保障に向けて、機械における専門的な知識と技能を身に着けさせ、将来の基盤となる能力と態度を育みます。</p> <p>（1）技能検定等に積極的に取り組みます。</p> <p>①技能検定（旋盤、フライス盤、機械組立仕上げ）受験者数を増やし、各々の合格率100%を目指します。</p>	<p>旋盤には2年生9名と3年生10名の計19名、フライス盤には3年生4名、機械組立仕上げには3年生9名が受検し、全員が合格した。また、新たに、2級技能士の抜き型や3級技能士の機械製図へ取り組む生徒も出てきた。</p>	
	<p>②3年間で危険物取扱者試験乙種第4類取得90%以上を目指します。</p>	<p>3年81名全員が3年間で危険物取扱者試験乙種第4類を取得した。</p>	
	<p>（2）2年生80名全員のインターンシップなどを通じて、職業観と勤労観を培うと共に、自己と職業の理解を促します。</p>	<p>夏休みに希望者5名、11月に2年生80名のインタ</p>	

	<p>(3) ものづくり活動を充実させます。 ものづくりコンテスト、コマ大戦、など各種競技会に参加すると共に、実習以外でのものづくり活動に取り組む生徒を養成します。</p>	<p>ーンシップを実施した。事前指導や振り返りから職業や勤労を考える意識付けはできた。</p> <p>以下に示す校外の競技会やものづくり教室で成果をあげた。</p> <p>ものづくりコンテスト旋盤作業三重県大会優勝、愛知県溶接競技会優勝、若年者ものづくり競技会フリース盤出場、機械製図(CAD)敢闘賞、高校生コマ大戦出場、テクドリームフェアものづくり教室参加、三重県産業教育フェアものづくり教室参加</p>	
--	--	---	--

### 改善課題

3級技能士合格率100%にむけて、4月より計画的に授業や補習を進めることができた。また外部教育力の制度を用いて熟練技能者から専門的な技術・技能を指導してもらえたことも結果につながったといえる。2年生で3級技能士を取得した生徒の中から、2級技能士へ取り組む生徒を育てることが課題である。危険物取扱者試験乙種第4類では、1年次で多くの生徒が合格し、それに触発されて未取得者は危機感を持ちながら試験に再び取り組んでいた。今後は、他類の取得率も上げたい。現在取り組んでいるインターンシップは職場体験の色合いが強いが、生徒たちの進路希望を少しでも聞きながらそれに合ったインターンシップを実施できるようにしたい。また、複数回インターンシップに行けるように考えたい。運動部に所属する生徒が多くを占める中、各種競技会に参加する生徒がいるが、少人数であるため、成果を上げている生徒はごく一部に限られている。ものづくり活動に取り組む人数を増やすためにも、部活動を終えた3年生や運動部を退部した生徒などにも声をかけたい。

項目	取組内容・指標	結果	備考
電子機械科	<p>1. 電子機械科の行事を通して将来に必要な基盤となる能力や態度を育てます。</p> <p>(1) 1年時に宿泊研修を行い、計画通りに怪我無く実施し、規則正しい生活態度を身につけ、連帯感・コミュニケーション力を高めます。</p> <p>(2) 2年生のインターンシップを行い生徒が働く意義と仕事することの重要性を確認します。</p> <p>(3) 3年生の進路選択・就職試験対策等の生徒個々の課題をフォローします。</p> <p>2. 専門的力量的の向上をめざす 各種資格取得に取り組む合格率を高めます。 第二種電気工事試験、技能検定(マシニングセンタ、シーケンサ) ITパスポート、全国工業高等学校長協会の検定、ガス溶接技能講習等</p>	<p>1. (1)4月20日(水)～21日(木)に宿泊研修を実施。今年度も、天候の影響で急遽研修内容の入替を行い対応した。また、不登校生徒の心配もあったが、研修には参加してクラスの連帯感を深める集団行動が取れた。</p> <p>(2)11月15日(火)～17日(木)の3日間でインターンシップを実施した。1名は運動部の大会と重なり体験できなかったが、それ以外は就業時間に遅れることなく、怪我・事故などもなく、終了することができた。</p> <p>(3)就職試験の不合格者を少数に抑え、その後の対応も生徒と相談をしながらすすめることができた。</p> <p>2. マシニングセンタ3級(16/16)人合格し、知事賞をはじめ協会長賞1・2位をいただいた。 シーケンス制御(13人:3級, 3人:2級)、ガス溶接技能講習(S2:40名)講習中。 2・3年生の危険物取扱者、電気工事士の合格者は減少した。</p>	

	ど		
改善課題			
<p>入学当初より、不登校の生徒がいたが、生徒に対して保護者とも連携をとり何とか宿泊研修に参加させることができた。高校生活初めのクラスの交流の場で、団体行動を学ぶイベントであり、どうしても参加させたかった。結果としてクラスの雰囲気は決して悪くないが、その後もその生徒は支援が継続して必要であり、他の一部受け身の生徒にも今後も気を付けていきたい。</p> <p>面接指導にも早くから取り組み、就職試験対策はまずまず成功した。しかし、就職希望先を決める時期に準備ができていない生徒が見受けられた。保護者・学校がしっかりと連絡を密に取り、連携をして進めていきたい。</p> <p>資格試験に向けては、2・3年生において合格率が下がる傾向があったり、受験申込をするが、就職が決まってからなどの試験にはあきらめる生徒も出ていたように感じる。しっかりと高い目標をもたせて、合格率アップを目指していきたい。</p>			
項目	取組内容・指標	結果	備考
電気科	<p>1 電気の基礎を学習し、実験実習でグループ学習と実験報告書作成により、計測機器の取扱い及び協調性と責任感を養います。</p> <p>2 実践的な資格習得1年生希望者4級品質管理検定60%以上を目標にします。</p> <p>3 電気科の資格取得2年生全員受験第二種電気工事士合格率70%以上を目標にします。</p>	<p>1 実験実習で学習した基礎理論を実証した。</p> <p>2 38名が受検し33名が合格、87%の合格率となり達成出来た。</p> <p>3 上期に38名が受検し、30名が合格した。この時点で79%の合格率で目標を達成した。</p> <p>下期受験者については2名受検しているが合格発表日が来月で確認出来ない。</p>	
改善課題			
<p>1 実験実習には生徒個人の状況に応じた指導が望まれる。</p> <p>2 特に課題はなし。</p> <p>3 毎年技能講習の前に技能講習を行っているが、年間を通して日程等の調整を計画的に行う必要がある。</p>			
	取組内容・指標	結果	備考

<p>電子工学科</p>	<p>1 電気および電子工学の基礎的な知識を理解させ、これを応用できる能力を養います。</p> <p>(1) 資格・検定取得者数のべ 120 人を目指します。</p> <p>2 各種製作実習を通じてより実践的な技能を身につけさせます。</p> <p>3 各種電子機器の機能を理解させ、各種計測、自動制御の理論、コンピュータの理論及び利用について、その基礎的な技能を習得させます。さらに、これらに関連して各種電子技術の応用、電気通信、電力設備情報技術などについても学習させ、将来の電子技術の進歩にも応用できる資質を養成します。</p>	<p>1 電気基礎・電子回路で学習した理論について実習で検証した。</p> <p>(1) 資格取得・検定合格者数 98 名</p> <p>2 1 年生テスターの製作 (完成)</p> <p>2 年生マルチバイブレータの製作 (完成)</p> <p>3 年生 FM ワイヤレスマイクの製作 (完成)</p> <p>赤外線センサの製作 (完成)</p> <p>3 産業用コンピュータのプログラムを作成し製造ラインの制御について学習する。(アームロボットの制御) PIC の制御プログラムの作成を通じて制御技術の学習をした。</p>	
--------------	--	---	--

改善課題

電気基礎・電子回路で学習した理論について実習で検証し誤差等について吟味できるようになった。  
 これからは電気基礎、電子回路で学んだ理論を活かせる実習を増やしていきたい。  
 資格・検定取得者数 98 名 (第二種電気工事士、危険物取扱者乙種、IT パスポート、情報技術検定、計算技術検定、基本情報処理技術者、第 4 級アマチュア無線技士、日本漢字能力検定準 2 級、小型ボイラー)  
 今後は電子系の資格として工事担任者の資格にもチャレンジさせたい。

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>建築科</p>	<p>1 建築業界への就職の定着をさらに進めます。</p> <p>(1) 三重県建設業協会との連携を図ります。</p> <p>(2) 三重県建設労働組合との連携を図ります。</p> <p>(3) 三重県建築士事務所協会四日市支部との連携を図ります。</p> <p>(4) 桑名商工会議所との連携を図ります。</p> <p>(5) 上記組織との連携をもってインターンシップと現場見学などを実施します。</p> <p>(6) 外部教育力の導入を図り、技術の向上に努めます。</p>	<p>1 専門系企業へ就職 25/28 名</p> <p>(1) 現場見学会 11 月 7 日に実施</p> <p>(2) 地域産業担い手の指導者育成事業・外部教育力などに協力を頂くことで地域企業との連携が強化</p> <p>(5) (1) (3) (4) の組織にてインターンシップ実習を実施 (協力企業 9 社 9 名)</p> <p>(6) 地域産業担い手の指導者育成事業の技術者による講演会を実施 (28 名参加)</p> <p>(6) ものづくりマイスター制度を活用した技術者による木工加工・設計競技の</p>	

	<p>(7) 上記以外の組織とも積極的に連携を図り、学校教育活動のアピールに努めます。</p> <p>2 資格試験の指導と資格試験への取り組みを進めるとともに、専門的力量的の向上を目指します。</p> <p>(1) 2級建築施工管理技士(学科試験)の合格率で全国平均を上回ります。</p> <p>(2) 建築CAD検定3級の合格率で全国平均を上回ります。</p> <p>(3) 情報技術検定3級で全員合格を目指します。</p> <p>(4) 計算技術検定3級で全員合格を目指します。</p> <p>(5) 技能検定3級(建築大工)の受験と全員合格を目指します。</p> <p>(6) 3・4級建設業経理事務士の全員合格を目指します。</p> <p>3 各種全国高等学校建築設計競技への参加と上位入賞を目指します。</p> <p>4 ものづくり大会東海大会への出場と入賞を目指します。</p>	<p>技術指導講習会の実施 (15名参加)</p> <p>(6) 1年実習、3年製図で外部教育力を導入</p> <p>(7)三重県産業教育フェア参加(10月22日・23日)</p> <p>2 多くの生徒が各種資格取得し成果をあげている。左記以外にも下記に挙げる資格の取得に挑戦。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築CAD検定2級 7月実施 1/6名合格 10月実施 3名受験</li> <li>・福祉住環境コーディネーター(前期)2級 0/3名合格 3級 5/29名合格 (後期)2級 0/2名合格 3級 1/11名合格</li> <li>・色彩検定 (前期)2級 2/3名合格 3級 7/15名合格 (後期)2級 1/2名受験 3級 3/5名受験</li> </ul> <p>(1)2級建築施工管理技士 11月13日実施 (全国平均 48.5%) 9/20名合格</p> <p>(2)建築CAD検定3級 1月実施 (全国平均 78.9%) 20/41名合格</p> <p>(3)情報技術検定3級 1月実施 28/39名合格</p> <p>(4)計算技術検定3級 6月17日実施 35/40名合格</p> <p>(5)技能検定3級 2月4・5日予定 6/6名合格</p> <p>(6)建設業経理事務士 (春期)3級10/10名合格 4級31名受験予定 (夏期)3級6/6名合格</p> <p>3 3年生3名 2年生4名 で7作品応募し全て入賞</p>	
--	---	--	--

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本大学 審査員特別賞</li> <li>・愛知産業大学 優秀賞</li> <li>・北海道科学大学 2等</li> <li>・工学院大学 優秀賞</li> <li>・日本建築協会 最優秀賞</li> <li>・長崎総合科学大学 入賞</li> <li>・九州産業大学 3等</li> </ul> <p>4 ものづくりコンテスト 三重大会 1・4 位入賞</p> <p>4 ものづくりコンテスト 東海大会 4 位入賞</p>	
--	--	--	--

**改善課題**

- 1 就職試験において内定率 100%を果たしたが専門系企業以外への就職者が3名となりました。求人数も結果的に求人数は充足している様に思えるが設計系企業からの求人は皆無であり、今後も建築業界との発展的な関係を築くなかで、専門系企業への就職率改善と共にその課題の解消に取り組む。
- 1-(7) 産業教育フェアでの軽トラ茶室・木製水車の展示をとおして、建築科の取組みを地域へ発信することはできたが、過去に実施した四日市ハウジングセンターでの「建築科生徒の作品展示会」などの地元地域や地元企業に発信する機会が必要。
- 2-(1) 今年度より受験資格が緩和され2年生での受験可能となる。学習体制を整えるため抜本的なカリキュラムの改編が必要。
- 2-(5) 昨年度の技能検定試験（建築大工）において、2級で 2/4 名が合格（全国平均合格率の 24.9%）、3級では 4/4 名が合格（同 46.0%）と平均合格率を大きく上回っており、外部講師の高度な技術指導の成果といえる。来年度も技能検定（建築大工）課題をとおした技術指導の体制を三重県建設労働組合との連携のもと指導体制を維持することが必要である。
- 3 設計競技ではものづくりマイスター制度を活用し、外部教育力を導入した成果として7つの作品すべてが入賞を果たした。
- 4 高校生ものづくりコンテストでは、ものづくりマイスター制度にて外部講師導入した成果として、三重大会で優勝・4位となり4年連続の優勝を果たして1名が三重県代表として東海大会へ出場。東海大会では4位となり入賞を果たせなかったが、県大会における連続優勝は、外部教育力との連携のもと同じ指導者による継続的な指導による成果といえる。

項目	取組内容・指標	結果	備考
自動車科	1 生徒の専門的力量的の向上を目指します。 (1) 計算技術検定の合格率100%を目指します。 (2) 情報技術検定試験の合格率100%を目指します。 (3) ガス溶接技能講習修了証の取得率100%を目指します。 (4) 本科は、国土交通省の指定を受けた自動車整備士養成施設であるため、特に自動車整備士試験の100%合格を目指します。 2 進路保障に力を入れます。 (1) 各学年とも実習の点呼・連絡時に生徒の1分間スピーチを実施し、コミュニケーション能力や心豊かな人間性と個々の伸長を図ります。 (2) 3年生の就職希望者の就職内定率及び進学希望者の合格率100%を目指します。	1 (1) 37名が合格した。 (2)～(4)の情報技術検定、ガス溶接技能講習修了証、自動車整備士試験については指導中である。 2 (1) 各学年とも実習点呼時にテーマを定めてスピーチを実施しており、自分の考えを発表すると共に他者の話を聞く力を身につけつつある。また、スピーチの内容に疑問点や意見がある場合は質問するなど積極的に取り組む態度も身につけつつある。 (2) 就職・進学共に100%の内定率を達成できた。	

**改善課題**

自動車整備士試験は、卒業後の3月の第3日曜に実施される。前年度の合格率はガソリン・エンジン40%、ジーゼルエンジン50%、シャシ66.6%と大きく目標を下回った。このことを踏まえ今年度は、2月に実施予定の整備士試験対策補講の一層充実に努める必要がある。

また、1年次から3年間を通して3級自動車整備士資格所得の必要性・重要性をより一層理解させる必要がある。そして専門教科・実習を通し確実に技術・技能・知識の習得に力を入れなければならない。

就職試験については1次募集試験にて2名が不採用となった。本年度は企業の求人意欲も高く2次募集があり、進路を保障することができたが、不景気になることを想定すると1次募集にて合格できないことは問題である。したがってキャリア教育をより一層充実させることが大切である。

## 5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	<ol style="list-style-type: none"><li>1、キャリア教育の一環として、1年生から生徒に意識を持たせ、3年間を見通して取り組むことができる体制が確立している点が評価できる。就職希望者の内定率は極めて良好である。今後、離職率等を調査し、キャリア教育に活用することが必要である。大企業だけでなく、中小企業についても、特徴や長所を把握し、個々の生徒に応じた進路指導を行う。</li><li>2、本年度の人権教育は、たいへん意義があったと思われる。来年度に向けて教材研究や講師の選定など、引き続き検討を深める必要がある</li><li>3、地域の行事への参加を通じて、地域との連携を益々深めることで、地域住民に期待される学校づくりを推進する必要がある。</li><li>4、日永小学校ものづくり体験実習は、本校生徒の専門性を深め、コミュニケーション力を高めることにとどまらず、小学校のキャリア教育の一環として重要な位置を占めており、今後も継続することが望まれている。</li><li>5、防災面で災害時を想定した地域との連絡調整が必要である。</li></ol>
--------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ol style="list-style-type: none"><li>1、キャリア教育プログラムを活用したキャリア教育を体系的に進め、進路保障の面で更に充実した取り組みを行う。</li><li>2、生徒・教職員それぞれの人権を大切にし、いじめ、差別、体罰のない学校づくりを推進する。</li><li>3、専門教育を充実させ、ものづくり等の教科活動を深化させるとともに、資格・検定の取得を奨励する。</li><li>4、引き続き地域との連携に取り組み、地域に期待される学校づくりを推進する。</li></ol>
学校運営についての改善策	<ol style="list-style-type: none"><li>1、平成30年度に設立される専攻科の教育体制づくりを確立する。そのため、県教育委員会との連携を深めるとともに、教育内容の検討、施設設備の充実、教職員間の情報共有並びに意思疎通に努める。</li><li>2、教職員の過重労働の削減やトイレの整備など、働き安い職場環境づくりを進める。</li></ol>